

◆地域を生かした特色ある教育

高梁学園3校は、地域における高等教育機会の提供と、地域社会での知的・文化的拠点としての役割を担ってきています。

保健福祉、幼児教育や文化財修復への貢献、高等学校と大学との連携など、さまざまな分野で私たちも恩恵を受けています。

高梁市だからできる教育について、吉備国際大学の藤田和弘学長にお聞きしました。

「ここに来なければ学べない」

―地域の特色を生かして―

高梁市は大都市に比べ、安全で安心して学生生活を送ることができます。また、歴史・文化的にも恵まれ、研究材料が豊富にあります。



藤田学長

す。こうした「高梁市ならではの」ものを生かしながら教育を進めています。これが本学の特色ある教育の一つにもつながっています。

―全国に先駆けた教育プログラム

今年度、吉備国際大学の社会福祉学部、保健科学部の教育プログラムは、特にわが国の高等教育の質の保証、国際競争力の強化に資するものとして、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に選定されています。

また、「大学院教育改革支援プログラム」では、文化財保存修復学研究科文化財保存修復学専攻の教育プログラムが中四国の私立大学では初の採択となっています。

このように国から評価される、先進的な教育にも積極的に取り組んでいます。

―どういった授業を行っているのですか

それぞれの学部学科で専門的に学ぶことは言うまでもなく、全学共通の教養科目として「備中高梁学」を取り入れています。

「備中高梁学」は、高梁の歴史・文化や豊かな自然など幅広い視点

身近に文化財がある高梁

文化財学部
文化財修復国際協力学科3年
内田 さき さん
(山口県宇部市出身)



学芸員の資格を取るために、いろいろところで研修しています。高梁市は私の育った宇部市とは違った情緒があり、城下町の町並みなど文化財で囲まれているという感じがします。郷土資料館での博物館実習では、普段は触れることさえできない文化財に触ることができ、とても勉強になりました。今は携帯電話が普及していますが、資料の中には木製電話などもあって感動でした。

私たちの暮らしの中には、便利なものがいっぱいありますが、昔のものがすべて基本となっているのですね。

高梁市には古い町並みなどがありますが、大切に守っていくとともに、若者の発想で新たに魅力あるものへと蘇らせることもできればいいと思います。

からまちの魅力を学生が学び、地域への愛着や誇りを持つてもらおうというものです。

地域密着型の総合大学にふさわしい教育内容としていきたいと思っています。

―市民の皆さんとのかわり

全学的な教育・研究活動の活性化を図り、併せて社会貢献に寄与することを目的に、平成17年、「教育開発・研究推進中核センター」を設置しました。これによって、大学という組織で地域の要請に

応じていくことができるようになります。

少子高齢化が進む中、市民の皆さんのご支援をいただきながら大学が教育研究の成果を地域に還元していくため、「教育」「研究」「地域貢献」の3つの「知のトライアングル」を大切にしていきたいと考えています。また、学生には、こうしたことを通じて、地域を愛し地域から愛されるようになってもらいたいと思っています。

これからも、ご理解ご協力をお願いいたします。

◆大学と市民の交流

大学は公開講座など、いろいろな場面で知的財産を生かした地域の活性化に貢献しています。また、学生の若い力も市にとって大きな活力となっています。

〔子育て支援のなかよし広場〕

幼児教育科を持つ順正短期大学では、昨年度から「なかよし広場」の取り組みを行っています。この事業は子ども、保護者、学生、教員が相互にかかわりながら子育てを支援するもの。

昨年度は、市内の保育園児や幼



(左から) 大角さん、森山さん、荻野恵悟くん・純子さん

稚園児とその兄弟、保護者を対象に2カ月に1回2時間程度行われ、参加者は延べ604人でした。ペットボトルやトレーなどの廃材を使った手づくり遊びや自然の中での川遊びなどを学生が企画・立案。こうした遊びを通じて、子ども同士、保護者同士の交流を深めています。

「なかよし広場」にかかわった、専攻科幼児教育専攻2年の森山美代さん(大分県日田市出身)は「座学だけでは実践に結び付きません。親子の姿から親と子のかかわりが見て取れ、ものすごく勉強になりました。学生同士でいろいろと案を出し合って行っているので、うまくやり終えたときはみんな嬉し、達成感がありました」と話します。

また、同2年・大角哲也さん(愛媛県新居浜市出身)は「通常の実習では子どもにかかわるだけで精一杯。でも、なかよし広場では保護者とのかわりも欠かせません。ここで得た体験は、就職後もきつと役立つはず」と話し、子どもや保護者と定期的に接することで、彼ら自身も成長したようです。息子の恵悟君と参加した荻野純

子さん(成羽町下原)は「学生の皆さんや先生方が、いろいろな遊びのアイデアを提供してくださり、楽しい時間でした。子どももすぐに友だちができ、親同士のお付き合いもできてよかったです。地域でも、こうした大学の催しがあればありがたいですね」と話されます。

指導に当たった柴倉初美講師は、「大学では教育資源を提供し、地域の子育て・環境づくりに率先して取り組んでいます。なかよし広場は子ども、保護者、学生、教員それぞれが互いに教育効果を高め合える事業です。来年度も実施することになっていますので、子育てにかかわっている皆さんに、ぜひ参加していただきたいですね」と話されます。

「なかよし広場」に関する問い合わせは同短大幼児教育科・専攻科(TEL)09517代表まで。

〔公開講座を受講して〕

吉備国際大学では、教育・研究活動の成果を地域社会に還元し、地域文化の向上に貢献することを重要な使命の一つとして、市民の皆さんにも大学の活動内容に触れてい



高見さん

ただくために公開講座を開催しています。

第18回となった昨年は「今注目のニュー・エクササイズで健康づくり」というテーマで8回開催、延べ381人の市民が参加しました。受講した高見弘道さん(備中町布瀬)は「3年前に広報紙で公開講座のことを知って、それから毎年受講しています。昨年は、ヨガやエアロビックなど体を動かす講座でしたが、自分のペースでできて楽しかったですよ。こうした一般向けの講座もいいですが、学生が受けているような講義も受けてみたいですね。有料で構わないので、講座ごとに受講生を募集してもらえれば、ぜひ参加したい」と話されます。

公開講座に関する問い合わせは、同大学公開講座事務局(TEL)9454)まで。